

第5回友の会ウィーク特集号

中央図書館の開館を祝い、スタートした「葛飾図書館友の会ウィーク」も今年で第5回目。

11月2日(土)から同17日(日)まで中央図書館内で、各委員会と友の会会員が所属する団体による様々なイベントが行われました。今号はウィーク期間中に開催されたイベントを特集しました。

朝野会長が「友の会」の活動紹介と入会を呼びかけ 《図書館と利用者を結ぶ集い》

きみまろのライブビデオに笑い声



11月10日(日)午後3時から、マジックショー(2ページ参照)に引き続き、「図書館と利用者を結ぶ集い ～中高年の皆さん! 図書館へ集合!」が開催されました。3部構成のイベントです。

第1部は「葛飾図書館友の会について」で、朝野会長が友の会の活動紹介と入会を呼びかけました。友の会は図書館を守り育てる協力・応援団体であること、必要なのは“やる気”だけで無理をしないボランティアとしての活動をする事、そしてまだまだ結成5年の新しい団体で、自由に考え、アイデアを実行できる柔軟性をもっている会であることの3点を強調しました。

第2部は区制施行80周年を記念し製作された特別DVD「かつしか 時の風景 一歩み続けて80年」を上映しました。昭和20年代から今日までの葛飾の歴史と現在各所にある主な施設などが撮影され、区内初の立石図書館の昔の姿や今の中央図書館などが映しだされ、葛飾区の戦後を知ることができました。

3部は約50分の「綾小路きみまろの爆笑! エキサイトライブ 大爆笑篇」のDVDの上映。中高年を激励(?)するきみまろのトークに思い当たるシーンがあるのか、会場からも笑い声が絶えず、参加者の皆さんは楽しんでいただけました。

このイベントの企画も1ヶ月前に急遽開催を決めたもので、友の会はアイデアを出し、賛同できる会員が集まれば可能な限り実行できます。是非、ご加入を!



16ミリ映画を久しぶりに上映

美しい画面に宮沢賢治の生涯を観る



11月3日(日)は「懐かしの16ミリ映画会」を開催。急遽決めたイベントで、生誕(1896年)100周年を記念した作品「わが心の銀河鉄道 宮沢賢治物語」でした。この上映にはヴィナシス1階にある千葉銀行のご好意で実現しました。周知期間が短く、来場者が心配されましたが、30名を超える方々が入場されました。「友の会」はこれまで16ミリ映画を上映するために、苦勞してきました。前回4月の「黒い雨」は3分の1を残すところで突然音声が消える予想外のトラブルにみまわれ、来場者に申し訳ない映画会になりました。しかし今回はフィルムや映写機器の状態を確かめるため前々日に試写をする念の入れよう。生まれ故郷の宮城・花巻などの風景や、37歳で夭折した賢治役の緒方直人や父親役の渡哲也の好演などが美しいカラー画面から感じ取れ、ご覧になった方の多くから好評をえました。また試写を含め上映に際し、技師としてボランティアの方が当たられ、手際よく2時間近く、3巻に及ぶフィルムの入れ替えをしていただきました。スクリーンがもう少し大きかったら・・・というのが賢治な悩みでした。

《特別セミナー》 「大学の今を語る」

第5回友の会ウィークの特別セミナーとして標記テーマの講演会を11月4日(月)午後2時～午後3時半に中央図書館で開きました。ノーベル賞受賞のような素晴らしいニュースがある一方で、大学における論文ねつ造や研究費流用などの不祥事がマスコミでとりあげられることが少なくありません。大学へのご理解と温かいご支援をいただきたく、次のような疑問にお答えしました。

- 1 最近の学生は昔の学生よりも勉強しなくなったか
- 2 先生はどんな仕事をしているのか
- 3 大学での意思決定システムはどうなっているか
- 4 研究費の仕組みはどうなっているか
- 5 大学入試の今後はどうなるか



総じて、モグラたたきのような対症療法をしても問題解決になるどころか、かえって問題を拡大させることをお話ししました。関心の高い話題だったようで、セミナーの参加者はとても熱心に話を聞いてくださり、講演後はポイントをついたご質問をいただきました。教員の資格、教養教育の重要性、アカハラ (academic harassment) 防止策などです。

最後に、東京理科大との関係を強めるために既に友の会も交流活動を始めていることと、友の会活動への参加を呼び掛けて講演会を終了しました。講師：朝野熙彦(中央大学大学院教授、葛飾図書館友の会会長)

友の会ウィークを飾るー《珠玉の公演》 演劇集団 Katsushika H. A. M の「誰にもわかるヘンな話」 テネシー・ウィリアムズ作 「バイロン卿の恋文」ほか

第1回友の会ウィークから、小品の演劇をプロの技で披露してきた劇団『H.A.M』は、今回も役者を揃えて「欲望という名の電車」、「焼けたトタン屋根の猫」などの戯曲・映画化で知られるテネシー・ウィリアムズの作品2本のほか《お話》、《朗読》、喜劇「大変な心配」(作・クゥルトリス)を上演しました。

「暗い部屋」は安アパートに娘と二人で暮らす母親を福祉の女性が訪問する話。この女性を演じる鈴木今日子さんの見事なせりふ回しは最後のどんでん返しののちも余韻となって消えませんが、セリフが早口で聞き取れないところもありました。原作では太った女性なので、ゆっくりでは？

「バイロン卿の恋文」の面白さはその愛の遍歴があまりに波乱万丈で、真偽不明なところがミソでしょう。しかし、最後の台詞でひょっとしたら本当の隠し子？という疑問が観客を逃しません。オールド・ミスを演じる山崎由美子さんの鮮やかさ、老女を演じる水野信子さんの間の良さ、そして秀逸なのは酔っ払いの夫を演じる橋本信明さんの見事な千鳥足でした。「大変な心配」は観客を巻き込む面白さ、「朗読：十一月の客」は若い人に受けること請け合い。坂 俊一さんの《オーディション裏話》も楽しいお話でした。



マジックなどを楽しむ



11月10日(日)午後、「友の会」の会員が所属し、子ども・老人や障害者施設などを訪問し活動しているボランティアグループの「ザ・マジック」が、得意のマジックやのこぎり演奏やガマの油売りを披露しました。

会場には多くの年配者や子供づれの親子が集まり、見事なマジックショーを見入りました。のこぎりの演奏には微妙な音程を見事に奏でる様子を楽しみ、巻いた首輪に剣を刺し通すマジックに子どもたちは固唾を飲んで冷や冷やしながらい見守り、無事剣を抜いたときには大きな拍手がおこりました。皆さん、楽しいひと時を楽しんだことでしょう。

特別講演会「頼朝・尊氏・信長～歴史家が語る人物像」

11月16日(土)午後2時より会議室1にて、東京大学史料編纂所教授の本郷和人氏による講演会が開かれ、場内はほぼ満員の大盛況でした。

講師の本郷氏は葛飾区亀有生まれ。中央図書館の開館や理科大の移転など、金町の発展ぶりへの驚きについて、東大へ行ったのは自宅から一番近い大学だったからなど、大学教授とは思えぬ軽妙な語り口で講演は始まりました。

日本は一つであるとする権門体制論、将軍と天皇という二つの王権があったとする東国国家論、律令制は本当に厳格に実施されていたのかなど、かなり難解な内容でしたが、それを楽しく分かりやすくお話して



いただきました。大河ドラマ「平清盛」の時代考証を担当され、画面が汚いと言われ視聴率も低かったが、平安時代の京都の町は本当に汚なく、当時は死骸は埋葬せず打ち捨てるものだったとの説明には驚きの声が上がりました。講演後の質疑応答では、歴史の研究者になりたいという高校生に、「日本史では食べていけません、貧乏に耐えられますか」と回答し、場内を沸かせました。

歴史に関心を持つ参加者からの様々な質問にキレのよい答えで応じ、さすがはと思わせられた実り多き講演会でした。

おはなしのへやはあったかい

今年も、友の会会員が所属する団体が楽しいおはなしや紙芝居を好演！



毎週土曜日の午後、定例の図書館事業になっている「おはなし会」や「紙芝居の会」以外に友の会ウィーク期間中、友の会の会員が所属している4団体のボランティアグループ（「おはなしたまごの会」、紙芝居サークル「飛行船」及び「青い鳥」、「おはなし夢時計」）による楽しいイベントが、計5回開催されました。

友の会ウィークのイベントと、図書館の「定例事業」のイベントでは、決定的に違うことがあります。「定例事業」は、基本的に図書館サービスに従ったボランティア活動なので、おはなし会などで語りや読み聞かせや紙芝居をするときは、①出典の明確なもの ②

区内図書館に複数蔵書又は類書があるもの ③著作権を守ること などの条件にあったプログラムを事前に提出します。ところが、友の会ウィークは、友の会の『お祭り』なので、そんな条件は全く無し。それぞれの団体が趣向を凝らし、演出などもOKということで、参加団体にとってもいつもと違うスタンスで楽しめる機会なのです。

いつもは著作権に気を遣うパネルシアターや、まだ日本で出版されていない外国の絵本を翻訳して紹介、ちょっとした衣装を着ての読み聞かせ、当日来てくれたお子さんの顔を見てプログラムを決める・・・など、それぞれの団体のカラーがより良く出て、お客さんも楽しめたのではないかと思います。天候や時間帯によって、大勢の親子で賑わった時間、こじんまりと少人数でほっこりした時間と、それぞれに、なにか演じる人とお客さんが、ともにあったかい気持ちを持って帰れる空間となったようです。

残念ながら、今回は参加できなかったボランティア団体の方もいたとお聞きしています。どの団体も、通常、図書館以外の保育園・幼稚園・児童館やご老人の施設などと、お忙しく活発に活動されているところが多いので、その合間を縫って、メンバーの方のご都合を合わせ、準備をして、一緒に友の会ウィークを盛り上げていただけることに、毎年、感謝の思いでいっぱいです。また来年、今度は、新しい顔をお迎えして、楽しい友の会ウィークが出来ることを期待しています。

(児童・YAサービス応援委員会)

はて、この曲は？ -CMで使われたクラシック名曲集- 最終日を締めくくった CD・DVDコンサート

第22回図書館所蔵のCD・DVDコンサートが、11月17日(日)、中央図書館会議室で開催されました。今回はいつものな



にげなく聴いているTVCMのバックミュージックをクイズ形式で鑑賞、楽しみながら当てる新しい試みでした。まず有名な[文明堂のカステラ]のCMがDVDで映写されました。登場する5匹のクマの人形がオッフェンバック作曲『天国と地獄』のピアノ演奏で踊ります。白黒時代からカラーへと変わっていく様子に笑いと懐かしさの雰囲気会場内に満ちました。

クイズは有名な「結婚行進曲」(メンデルスゾーン)、「愛の夢」(リスト)、「チゴイネルワイゼン」(サラサーテ)、「凱進行進曲」(ヴェルディ)など、第1部、第2部合わせて14曲が出題されました。

出題されました。

DVDの例題は文明堂のほか3社の提供、CD演奏でこれらの曲がヒントとして流されましたが、CM提供の企業名と曲名を合わせることはなかなか難しく、終了まじかにやっと元気よく手が挙がるようになりました。楽しみながら大音響で聴く名曲の調べにあつという間に時間が過ぎ、賞品の1位として提供された図書館バッグは小学生のお嬢さんが獲得し、楽しいクイズ大会を終ることができました。

「広報かつしか」 9月25日号に友の会が紹介 究極の図書館活用法という特集記事

図書館で活動する「葛飾図書館友の会」

図書館の活動は、たくさんのボランティアの方たちに支えられています。「葛飾図書館友の会」もその一つで、おはなし会や講演会など、本を通じてさまざまな活動を行っています。11月には中央図書館で「友の会ウィーク」として、講演会や演劇など楽しいイベントを開催します。



書架整理の様子

**私たちは
図書館応援団です！**

葛飾図書館友の会会長・金町在住 **朝野熙彦**さん

葛飾図書館友の会は、中央図書館開設の1年半ほど前に、図書館をサポートし応援する会として発足しました。

図書館でのイベント・映画会・CDコンサートなどの企画運営や、館内展示、本のメンテナンスなど、自分たちのできる範囲で、さまざまなボランティア活動に携わっています。

今後は、なかなか図書館を利用できない会員の方向けに、会社帰りに立ち寄れるビジネス関係の勉強会、講演会などを企画していきたいと思っています。

本や図書館に興味のある方、ぜひ一緒に活動しましょう。



早稲田文学編集室発行「WB」に キーワード読書会が掲載されました

カーリル WB ウチのオススメ

図書館検索サイト「カーリル」のレシビ情報、好きな本をまとめてレシビをつくり、いろんな人に届けることができます。ここでは、そのなかからWB編集部がおすすめブックアップ！

『ゾウの時間 ネズミの時間』
—サイズの生物学— 本川達雄
一生に打つ鼓動の回数には種族に関係なく同一。

『蒲生邸事件』
高部みゆき
タイムトラベル物は奥が深い。高部みゆきならこの一冊！

『女の二十四時間』
—ツヴァイク短篇選—
克明に時間を追って語られるC夫人の秘密の24時間。

「時間」を
テーマに
持ち寄った
本

たまには違った傾向の本が読みたい人にオススメ
日文を修めた元文学少女、シャーロックキーン、ロマンスグレーの詩人、欧米文学研究のおじさまなどが集う読書会のレシビです。テーマが「時間」だから、タイムトラベル物ももっと多いと思っただけですが、さまざまな切り口から選んでくれました。古くてリストには入らなかった藤井千次の『時間』を紹介するときは、内向の世代、課外、観念小説など文用語が飛び交っていました。

葛飾図書館友の会 キーワード読書会さん 葛飾区の図書館を盛り上げていくというボランティア団体。
このレシビのURL <http://calii.jp/recipe/21289002> こうとうというボランティア団体。
<http://katsutomo.jimdo.com/>

ゾウとネズミの鼓動の数が同じなんて、ふしぎ！(ぼくはパンダが好きだよ。2か月に1回、テーマを決めて読書会をやっている「葛飾図書館友の会」さんに紹介いただいたよ。レシビには化石マニアの人が挙げる『都市の化石地図』や、中学校図書室勤務の人が紹介する『時間をまきもどせ!』もあるんだね。タイムトラベル、もしも出来るならいつに戻りたい? (ぼくはねえ、昨日のご飯がおいしかったから、もう一度食べたいな! その前のご飯のことほもう覚えてないよ。)
読書会には、いろんな人が参加するから、予想もしない本を読むことになるんだって。いっぱい本を挙げて、ぜんぶみんなで読むのかな。どんな話が出たんだろう。もっと知りたいな。

色えんぴつ

今年の中秋の名月は雲一つない夜空にそれは美しかった。が、台風は30号を数え十月二十六日の26号では東京の大島を直撃し、それは大きな被害となった▼以前は地震も震度3くらいであったが2年前の3・11で東京も震度5を体感して以来、震度4もあるようになってきた。東京直下型もあるかも知れず、防災訓練も多くなった▼先日、テレビのクイズで富士山も活火山ですと答えが出、五十年以上前の学校では休火山と学んだのにと。思う。けれども現在小笠原諸島近くの東京都の海で火山が噴火しており島に成る様子であり、政府が領土がふえることは嬉しいとコメントしていた▼今年は自然も例年とは違い、夏は40度からあり彼岸のあとは、気温が7度等と冬のように低い日ありで秋がなかった感じがして、街路樹の紅葉も遅く年末も近い今やつとどこでもとても美しい▼夜長の読書をせずに年の瀬となりそうですが師走を走らないようにしたいと思っている。

(横嶋広報委員)

4